

平成 2 2 年度

# 事業報告書

財団法人日本ゲートボール連合

## I. 一般概要

財団法人日本ゲートボール連合では、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的に、誰でも気軽にできるスポーツ「ゲートボール」を普及するため各種事業を展開している。

平成 22 年度は、それぞれの加盟団体の地域特性を考慮し、その地域にあった普及事業を展開するため、前年度に引き続き「加盟団体連繋プログラム」を日本財団の助成事業として実施し、本連合と加盟団体との情報共有により、効果的な事業展開を図った。

また、愛好者の拡大には、指導者が不可欠であることから、指導者の育成・資質向上を目的に、「地域指導者の育成」「競技指導者研修会」を実施した。

さらに、ゲートボールの競技性を高めるため、全国大会の開催、公認審判員の養成、技能認定制度の実施などの各種事業を行った。

特に、平成 22 年度は、中国上海市において第 10 回世界ゲートボール選手権大会が世界ゲートボール連合の主催で開催され、本連合は、本大会への運営協力を行うとともに、チームおよび国際審判員を派遣した。

広報関係では、機関誌「ナイスパル」の発行、通信衛星放送番組の放映を継続するとともに、ホームページ等を随時更新し、積極的に情報発信に努めたため、全国の新聞やテレビ等マスコミで取り上げられる機会が多くなり、特に、高校生などのジュニア層への普及については、各種メディアで取り上げられ、女子高生のゲートボールプレーヤーを題材にした漫画も登場したことは、高等学校のモデル校指定事業によるジュニア層への普及の成果である。

公益法人改革に対する対応としては、公益財団法人への移行のため、移行後の法人の定款等を制定するとともに、移行後の最初の評議員、理事、監事を選任し申請準備を進めた。

一方、国民体育大会正式競技種目採択活動で、平成 27 年開催予定の第 70 回国体(和歌山県)から、公開競技として参加できるようになったが、本連合では、正式競技種目との差異を重視し、あくまでも正式競技種目採択を目指して運動を継続した。

海外普及関係では、世界ゲートボール連合ならびにアジアゲートボール連合とも連携し、世界選手権大会への協力のほか、海外の加盟団体および未普及地域への普及を進め、普及地域の拡大に努めた。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した「東日本大震災」については、本連合独自で義援金募集等に着手したほか、日本財団等の支援活動に協力した。

以上、監督官庁である文部科学省をはじめ、関係機関・団体と協調して以下の事業を実施した。

## II. 事務報告

### 1. 基本財産

平成23年3月31日現在の基本財産は、1億円である。

※財務諸表では債券が時価評価となり、期末の基本財産は、104,368,000円となっている。

### 2. 役員等

#### (1) 役員（任期：平成22年4月1日～平成24年3月31日）

本連合の理事は15名以上22名以内、監事は2名である。平成23年3月31日現在の役員は、役員名簿（別表1）のとおり理事16名、監事2名で、平成22年度における理事の異動は次のとおり。

平成23年2月22日付 南関東地域 西山 實 ⇒ 中川雅治

#### (2) 評議員（任期：平成22年4月1日～平成24年3月31日）

本連合の評議員は55名以上60名以内である。平成23年3月31日現在の評議員は、評議員名簿（別表2）のとおり58名である。また、平成22年度における評議員の異動は、次のとおり。

平成22年6月3日付	長野県	徳武嘉久	⇒	三ツ井 盈
	千葉県	菊地信雄	⇒	新見義和
	京都府	鈴木信久	⇒	吉田清治
	大阪府	浅田光男	⇒	奥間邑善
	高知県	岩本悦夫	⇒	山内 高
平成23年2月24日付	東京都	林 正男	⇒	中川雅治
	岡山県	光友 進	⇒	瀧口壽美男
	広島県	日浦道德	⇒	栗栖 定
	東京都	中川雅治	⇒	小林茂量

#### (3) 専門委員会委員（任期：平成22年4月1日～平成24年3月31日）

本連合には3部門の専門委員会があり、平成23年3月31日現在の各専門委員会委員は、専門委員会委員名簿（別表3）のとおり総務財政委員11名、競技・審判委員12名（ドーピング防止委員会委員3名）、普及指導委員11名である。

なお、役員、評議員、専門委員の任期については、任期中に本連合が公益財団法人へ移行した場合は、移行後の法人の設立登記完了の日までとなる。

### 3. 会議

本連合の事業遂行のため、理事会・評議員会・専門委員会を以下のとおり開催した。理事会・評議員会においては事業遂行の重要案件を審議し、各専門委員会においては会長の諮問等について審議し答申した。

(1) 理事会の開催

1) 第 72 回理事会 平成 22 年 6 月 3 日 於：海洋船舶ビル

審議事項

- 第 1 号議案 平成 21 年度事業報告ならびに収支決算に関する件
- 第 2 号議案 平成 23 年度日本財団への助成事業申請に関する件
- 第 3 号議案 公益財団法人への移行に伴う最初の評議員選任委員会の委員に関する件
- 第 4 号議案 規程の一部改正に関する件
- 第 5 号議案 評議員の変更に関する件
- 第 6 号議案 第 11 回世界ゲートボール選手権大会の開催誘致に関する件
- 第 7 号議案 公式ゲートボール競技規則の改正準備に関する件

2) 第 73 回理事会 平成 23 年 2 月 24 日 於：海洋船舶ビル

審議事項

- 第 1 号議案 平成 22 年度収支予算の一部補正に関する件
- 第 2 号議案 平成 23 年度事業計画ならびに収支予算に関する件
- 第 3 号議案 規程の制定および一部改正に関する件
- 第 4 号議案 評議員の変更に関する件
- 第 5 号議案 平成 25 年度日本連合主催全国大会の開催地に関する件
- 第 6 号議案 公益財団法人移行申請のための定款等に関する件
- 第 7 号議案 公益財団法人移行後の新法人の最初の評議員候補、および理事・監事に関する件

(2) 評議員会の開催

1) 第 65 回評議員会 平成 22 年 5 月 28 日 於：ホテルメトロポリタン長野

審議事項

- 第 1 号議案 平成 21 年度事業報告ならびに収支決算に関する件
- 第 2 号議案 平成 23 年度日本財団への助成事業申請に関する件
- 第 3 号議案 公益財団法人への移行に伴う最初の評議員選任委員会の委員に関する件
- 第 4 号議案 規程の一部改正に関する件
- 第 5 号議案 第 11 回世界ゲートボール選手権大会の開催誘致に関する件
- 第 6 号議案 公式ゲートボール競技規則の改正準備に関する件

2) 第 66 回評議員会 平成 23 年 2 月 22 日 於：笹川記念会館

審議事項

- 第 1 号議案 平成 22 年度収支予算の一部補正に関する件
- 第 2 号議案 平成 23 年度事業計画ならびに収支予算に関する件
- 第 3 号議案 規程の制定および一部改正に関する件
- 第 4 号議案 役員の辞任および選任に関する件
- 第 5 号議案 平成 25 年度日本連合主催全国大会の開催地に関する件

第6号議案 公益財団法人移行申請のための定款等に関する件

第7号議案 公益財団法人移行後の新法人の最初の評議員候補、および理事・監事に関する件

(3) 専門委員会の開催

1) 総務財政委員会

- 第1回総務財政委員会 平成23年2月17日 於：日本財団ビル  
平成23年2月18日 於：海洋船舶ビル

審議事項

- ① 委員長・副委員長の選出
- ② ゲートボール界の現状調査
- ③ 会費制度
- ④ 日本連合の情報提供手段

2) 競技・審判委員会

- 第1回 競技・審判委員会 平成22年11月11日・12日 於：海洋船舶ビル

審議事項

- ① 委員長・副委員長の選出
- ② 公式競技規則および審判実施要領
- ③ ゲートボール技能認定制度
- ④ 全国大会
- ⑤ 審判員制度
- ⑥ その他

- 第1回 競技・審判小委員会 平成22年11月10日・11日 於：海洋船舶ビル

審議事項

- ① 公式競技規則および審判実施要領
- ② ゲートボール技能認定制度
- ③ 全国大会
- ④ 審判員制度
- ⑤ その他

3) 普及指導委員会

- 第1回 普及指導委員会 平成22年9月29日 於：海洋船舶ビル

審議事項

- ① 委員長・副委員長の選出
- ② その他

4. 公益財団法人への移行

平成20年12月1日に公益法人制度改革3法が施行されたことに伴い、本連合では公益財団法人へ移行することについて機関決定しているが、平成22年度は、文部科学省より移行後の

最初の評議員の選任方法について「最初の評議員選任委員会」を設置して選任することで認可を受けたことから、移行後の最初の評議員について同委員会を選任した。

また、理事、監事を選出するとともに、移行後の法人の基本規範となる定款および、申請に必要な規程を制定した。

今後は、公益認定等委員会、弁護士、公認会計士、および関係団体の専門家と協議しながら事業と予算について再度検討し、平成 23 年度中の申請を目指すこととした。

## 5. 規程の制定および一部改正

### (1) 規程の制定および一部改正

- 1) 共済見舞金規程の改正（第 65 回評議員会、第 72 回理事会）
- 2) 公式ゲートボール競技規則の改正（第 66 回評議員会、第 73 回理事会）
- 3) 加盟団体表彰規程の改正（第 66 回評議員会、第 73 回理事会）
- 4) 公式リレーシオン-2 競技規則の制定（第 66 回評議員会、第 73 回理事会）
- 5) 公式リレーシオン-3 競技規則の制定（第 66 回評議員会、第 73 回理事会）

### (2) 公益財団法人移行後の新法人に関する制定

- 1) 定款の制定（第 66 回評議員会、第 73 回理事会）
- 2) 役員および評議員の報酬等並びに費用に関する規程の制定（第 66 回評議員会、第 73 回理事会）
- 3) 加盟団体および会員に関する規程の制定（第 66 回評議員会、第 73 回理事会）

## 6. 事務局機構

平成 23 年 3 月 31 日現在の事務局機構は、別表 4 のとおり 2 部 4 課であり、職員 11 名である。

## 7. 届出・登記事項

### (1) 文部科学省への届出

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1) 事業状況等の報告   | 3 件 |
| 2) 役員の移動に伴う届出 | 1 件 |

### (2) (財)日本体育協会へ届出

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1) 事業状況等の報告   | 3 件 |
| 2) 役員の移動に伴う届出 | 1 件 |

### (3) (財)日本レクリエーション協会への届出

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1) 事業状況等の報告   | 3 件 |
| 2) 役員の移動に伴う届出 | 1 件 |

### (4) 登記事項

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1) 役員の移動に伴う登記 | 1 件 |
|---------------|-----|

## 8. 公益財団法人への移行に伴う認可申請

### (1) 文部科学省への認可申請

最初の評議員の選任に関する理事の定める認可申請書（平成 22 年 5 月 25 日 認可）

## 9. 東日本大震災復興支援活動

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による被災者・被災地の復興支援のため、義援金募集活動等を開始した。

フィリピン大使館への支援物資の提供、日本財団が設置した「東日本大震災支援基金」への協力のほか、ホームページ等でチャリティ大会の開催や義援金の募集ならびに被災者に対する用具の寄贈等呼びかけた結果、平成 23 年 3 月 31 日現在で 27 件 602,022 円の募金があり、平成 23 年度に入金されるものと合わせて、配分方法等を検討し、加盟団体を通じて支援する。

### Ⅲ. 事業報告

#### 1. ゲートボールの普及事業

平成 22 年度も、ゲートボール愛好者の底辺拡大や加盟団体の組織活性化のため、マネジメントを強化することを目的として加盟団体連繫プログラムを実施した。

また、「地域指導者の育成」事業においては、ゲートボールのイメージを改善するためのリーダーや競技者の資質向上を目指した地域指導者研修会、競技指導者研修会を実施し、指導者の資質向上に努めた。

##### (1) 加盟団体連繫プログラム(日本財団助成事業) (1,648 万円)

いままでに実施してきた体験教室や初心者教室・指導者の育成向上など、各種事業の経験を活かしながら、より効果的な施策を行うために、地域性を考慮しつつ加盟団体の実情や要望にあわせ、問題点や課題を解決するための糸口となることを目的とした事業を展開した。

##### 1) 事業実施団体訪問

当該団体を訪問して役員会等を開催し、事務局体制や活動状況、財務状況の確認および地域性や特性の把握、関係者との情報交換などのほか、今後の事業展開を検討した。

また、府県教育委員会や府県体育協会等関係機関・広域スポーツセンターなどにも足を運び、国体正式競技種目採択への働きかけを行った。

実施団体	訪 問 日	実施団体	訪 問 日
宮 城	8 月 09 日～8 月 11 日	栃 木	7 月 7 日～7 月 9 日
福 井	6 月 21 日～6 月 24 日	三 重	6 月 28 日～6 月 30 日
大 阪	8 月 10 日～8 月 11 日		8 月 9 日
広 島	7 月 11 日～7 月 13 日	香 川	8 月 20 日～8 月 23 日
長 崎	7 月 12 日～7 月 15 日	熊 本	8 月 15 日～8 月 18 日

##### 2) 主な実施事業

実施団体	実 施 事 業	実施団体	実 施 事 業
宮 城	親子教室 世代別競技者育成プログラム	栃 木	ミドル部会設立 リーダー育成講習会
福 井	初心者講習会・競技会	三 重	各種委員会設立 マナー向上啓蒙活動
大 阪	普及研修会開催検討	香 川	マナーアップ勉強会
広 島	執行体制改革検討会 広報展開・指導者育成	熊 本	チームリーダー研修会 指導者育成プログラム
長 崎	指導者研修会		

##### 3) 加盟団体マネジメント・セミナー

情報の共有と各地の情報交換を行うため加盟団体の役職員を招集して開催した。

今回は、第一日目に昨年度の加盟団体連繫プログラムのデータを経営コンサルティングの視点からゲートボール界の現状と今後の普及戦略についての助言をもらうためにヴィブランドコンサルティング(株)より講師を招き、講義を受けるとともに、全国ジュニア大会



などで上位入賞を続け、ゲートボール部活動が継続している作新学院高等学校や埼玉県立朝霞高等学校の顧問教諭や学校長から「高校への普及のヒント」をテーマにアドバイスをもらった。第二日目には本年度の加盟団体連繋プログラムの実践を説明し、中でも特徴のあった広島や香川、三重などの事例を発表した。

実施場所	会 場	実 施 日	参加者数
東京都港区	海 洋 船 舶 ビ ル	平成 23 年 3 月 3 日(木) 3 月 4 日(金)	56

#### 4) フォローアップ事業

平成 21 年度に加盟団体連繋プログラムを実施した団体の中で、引き続き支援が必要と判断した団体を対象とし、組織の更なる連繋強化のための各種事業を実施した。

実施団体	訪 問 日	実施団体	訪 問 日
青 森	11 月 27 日～11 月 28 日	秋 田	11 月 28 日～11 月 29 日
高 知	11 月 18 日～11 月 19 日	愛 媛	3 月 9 日～3 月 10 日

### (2) 地域指導者の育成（日本財団助成事業）（311 万円）

#### 1) 地域指導者の育成

「親学」の専門家、レクリエーション担当者等を講師に招き、講演をとおして地域指導者の知識を深めるとともに次世代愛好者であるミドル世代の普及策を研究・協議した。

平成 22 年度「親学・地域指導者研修会」開催一覧表

実施団体	開 催 場 所	実 施 日	参加者数
宮 城	ボ ー ト ピ ア 大 郷	平成 22 年 6 月 30 日(水)	206
岡 山	岡 山 ふ れ あ い セ ン タ ー	平成 23 年 1 月 14 日(金)	82
合 計			288

#### 2) 競技指導者研修会

審判員の有資格者を対象に、競技指導者としての資質向上を図るため、審判実施要領や競技規則、競技会の企画・運営方法等の研修会を実施した。

平成 22 年度「競技指導者研修会」開催一覧表

実施団体	開 催 場 所	実 施 日	参加者数
長 野	犀川第二緑地公園・若里文化ホール	平成 22 年 4 月 30 日(金)	265
埼 玉	彩 の 国 く ま が や ド ー ム	平成 22 年 7 月 24 日(土)	105
鳥 取	東郷湖羽合臨海公園ゲートボール常設コート	平成 22 年 8 月 8 日(日)	90
群 馬	前橋施設ゲートボール場「幸始園」	平成 22 年 10 月 25 日(水)	155
合 計			615

### (3) モデル校を指定する助成事業(130 万円)

全国各地の高等学校にゲートボールのクラブ・同好会の発足を促し、ゲートボール活動への支援・協力を行った。本事業も第 9 期目を迎え、平成 22 年度から、クラブ・同好会の立ち上げから育成までの助成期間を 3 年とした。

全国ジュニア大会への参加や他校との交流、都道府県高等学校体育連盟への加盟促進などに努力することを条件として新たに 2 校を指定した。

なお、第 8 期のモデル校は、今年度で事業を終了した。

第8期（平成21・22年度）

- 1) 太田市立商業高等学校（群馬）      2) 私立興譲館高等学校（岡山）  
3) 県立南大隅高等学校（鹿児島）

第9期（平成21・22・23年度）

- 1) 県立久比岐高等学校（新潟）      2) 私立出雲西高等学校（島根）

(4) ユースゲートボール連盟への支援

高校生・大学生を中心とする10～20歳代のユース世代を対象としたユースゲートボール連盟の事業を支援した。なお、同連盟では下記の大会を開催した。

名 称	期 日	開催場所	参加人数
第8回高校交流会	6月13日	朝霞中央公園	約80名
第9回全国ユース親善大会	8月21日・22日	平井運動公園ほか	約80名
秋季ユース親善大会	11月14日	平井運動公園	約70名
第2回新年ユース親善大会	1月8日・9日	天城ドーム	約50名

2. 審判員資格の認定事業（13,212万円）

(1) 審判員資格試験の実施

競技を公正かつ円滑に実施するために必要不可欠な審判員の養成と技能向上を図るため、各級の審判員資格試験を実施した。

なお、平成22年度から審判員資格試験を各加盟団体で実施することになった。

受験者数および合格者数（平成22年度）

	受 験 者	合 格 者	備 考
1 級	673	668	42加盟団体で実施
2 級	1,219	1,195	43加盟団体で実施
3 級	4,905	4,905	47加盟団体で実施
合 計	6,797	6,768	

(2) 審判員の登録と登録更新の実施

審判員の維持・管理、技能向上のため、加盟団体の協力を得て、各級の登録や審判員資格更新講習会を実施した。

また、昨年度に引き続き、85歳以上の審判員を対象とした永年審判員の登録を実施した。

なお、平成22年度の新規登録者数は、6,814名、登録更新者は、47,857名となった。

新規登録者数および登録更新者数（平成22年度）

	新規登録者	登録更新者	合 計
1 級	685	6,497	7,182
2 級	1,247	6,940	8,187
3 級	4,882	34,420	39,302
合 計	6,814	47,857	54,671

永年審判員登録者数（平成22年度）

	1 級	2 級	3 級	合 計
新規登録者	21	10	12	43

(3) 国際審判員資格試験および登録更新の実施

日本国内における国際審判員を養成するため、資格試験および登録更新を実施した。

また、今後も2014年に日本での開催が決定している第11回世界ゲートボール選手権大会の開催を見据え、更に国際審判員を養成していく。

なお、平成23年3月31日現在の国際審判員は、世界12加盟団体で計469名が登録している。

国際審判員登録者数一覧表（日本国内）

加盟団体	受験者数	合格者数	新規登録者数	登録更新者数	累計
新 潟	0	0	7	0	30
富 山	0	0	1	0	1
福 井	0	0	0	0	3
長 野	0	0	7	0	7
大 阪	0	0	0	8	8
兵 庫	0	0	0	9	9
奈 良	1	1	1	2	3
和 歌 山	0	0	0	1	1
鳥 取	0	0	0	0	2
島 根	0	0	6	0	10
岡 山	0	0	0	0	4
広 島	0	0	7	0	11
徳 島	0	0	0	7	7
香 川	0	0	0	11	11
合計	1	1	29	38	107

\*新規登録者数は平成21年度合格者が平成22年度に登録を完了したものである。

3. 指導者制度(212万円)

(1) 「専門科目」および「準指導員養成科目」講習・検定試験の実施

指導者制度の充実と加盟団体の普及指導体制の確立を図るため、都道府県体育協会と共催する指導員養成講習会を2回、加盟団体で実施する準指導員講習会を3回実施した。

1) 「指導員養成講習会」の開催

加盟団体	期 間	開催地	受講者	合格者
新 潟	平成22年7月 3日～8月21日	新潟県三条市	16	16
群 馬	平成22年7月16日～8月28日	群馬県前橋市	26	26
合 計			42	42

2) 「準指導員養成講習会」の開催

加盟団体	期 間	開催地	受講者	合格者
埼 玉	平成22年 9月25日～12月 5日	埼玉県伊奈町	14	14
宮 城	平成22年11月23日～11月25日	宮城県東松島市	24	24
長 崎	平成23年 2月04日～ 2月 6日	長崎県長崎市	10	10
合 計			48	48

### 3) 公認スポーツ指導員の登録者数

前年度までに専門科目を修了し、新たに(財)日本体育協会に登録された指導員は、40名(平成23年3月31日現在)。なお、加盟団体の平成22年度の登録者数は、1,861名となった。

加盟団体	新規	登録者数	加盟団体	新規	登録者数
北海道	0	31	滋賀	0	30
青森	0	7	京都	0	48
岩手	0	18	大阪	0	52
宮城	0	30	兵庫	0	41
秋田	0	10	奈良	0	3
山形	0	22	和歌山	0	4
福島	0	19	鳥取	0	6
茨城	0	33	島根	0	16
栃木	0	18	岡山	0	54
群馬	0	4	広島	0	52
埼玉	4	167	山口	0	12
千葉	0	32	徳島	0	33
東京	0	40	香川	0	53
神奈川	0	87	愛媛	0	20
新潟	0	169	高知	0	16
富山	0	10	福岡	0	29
石川	0	37	佐賀	0	14
福井	0	21	長崎	5	37
山梨	0	24	熊本	0	6
長野	31	299	大分	0	26
岐阜	0	85	宮崎	0	30
静岡	0	43	鹿児島	0	22
愛知	0	13	沖縄	0	3
三重	0	35	合計	40	1,861

### 4) 準指導員の登録者数

本連合に登録されている「準指導員」は39名(平成23年3月31日現在)となった。なお、加盟団体の平成22年度の更新者数は、12名となった。

加盟団体	新規	更新	登録者数	加盟団体	新規	更新	登録者数
北海道	0	1	5	滋賀	0	0	0
青森	0	0	2	京都	0	0	0
岩手	0	0	0	大阪	0	0	0
宮城	0	0	1	兵庫	0	0	0
秋田	0	0	1	奈良	0	0	0
山形	0	0	0	和歌山	0	0	0
福島	0	0	0	鳥取	0	0	0
茨城	0	0	0	島根	0	0	0
栃木	0	1	1	岡山	0	7	14
群馬	0	0	0	広島	0	1	1
埼玉	0	0	0	山口	0	0	0

千葉	0	0	0	徳島	0	0	1
東京	0	0	0	香川	0	0	0
神奈川	0	0	0	愛媛	0	0	0
新潟	0	0	0	高知	0	0	0
富山	0	0	0	福岡	0	0	3
石川	0	0	0	佐賀	0	0	0
福井	0	0	0	長崎	0	2	3
山梨	0	0	0	熊本	0	0	0
長野	0	0	1	大分	0	0	0
岐阜	0	0	2	宮崎	0	0	0
静岡	0	0	0	鹿児島	0	0	0
愛知	0	0	0	沖縄	0	0	0
三重	0	0	4	合計	0	12	39

#### 4. 技能認定制度の実施(172万円)

国民体育大会正式競技種目採択に向け、また、ゲートボールの技能向上をねらいとして平成20年度より導入した技能認定制度を、平成22年度は、13加盟団体に実施し、434名が技能保持者として登録した。なお、加盟団体別の登録者は次のとおり。

ゲートボール技能認定制度 受検者数・登録者数（平成22年度）

加盟団体	受検者数	IGS登録者数			加盟団体	受検者数	IGS登録者数		
		1級	2級	3級			1級	2級	3級
福島	68	65	0	0	京都	34	34	0	0
東京	1	1	0	0	兵庫	27	27	0	0
新潟	227	49	83	72	和歌山	10	10	0	0
長野	15	0	2	0	徳島	14	14	0	0
静岡	14	10	4	0	福岡	23	18	4	1
三重	23	9	14	0	鹿児島	9	9	0	0
滋賀	8	8	0	0	合計	473	254	107	73

ゲートボール技能保持者数（平成23年3月31日現在）

加盟団体	IGS技能保持者数			加盟団体	IGS技能保持者数		
	1級	2級	3級		1級	2級	3級
北海道	83	0	0	京都	192	1	2
岩手	186	0	0	大阪	18	0	0
宮城	151	0	0	兵庫	490	0	0
山形	56	0	0	奈良	13	0	0
福島	101	0	0	和歌山	14	0	0
茨城	22	0	0	徳島	14	0	0
栃木	32	0	0	香川	10	0	0
埼玉	77	0	0	愛媛	7	0	0
千葉	37	13	0	福岡	125	46	3
東京	59	0	0	佐賀	77	6	0
神奈川	14	0	0	長崎	39	0	0
新潟	222	117	86	熊本	43	0	0
福井	31	0	0	大分	20	0	0
長野	265	2	0	宮崎	21	0	0
岐阜	31	31	4	鹿児島	32	0	0
静岡	58	8	0	沖縄	27	0	0

三重	32	16	0	合計 (34団体)	2,607	240	95
滋賀	8	0	0		2,942		

## 5. リレーション（2人制・3人制ゲートボール）

リレーションー2、リレーションー3は、少人数でチームを編成し、運動量豊富でスピーディーなゲームが展開できることから、知的コミュニケーション・スポーツとしてミドル層やジュニア層を中心に幅広い世代に支持されるようになり、各地での競技会開催も定着してきた。国際的な視野も含め、平成23年4月1日には競技規則として施行することから、今後、全国大会の開催なども検討することとした。

## 6. 大会の主催

ゲートボールの技能向上や加盟団体会員間の相互交流を図ることを目的として、毎年各種全国大会を開催している。この全国大会は、ゲートボール界の発展やゲートボール競技のステータス向上に寄与するだけでなく、会員間の団結力の強化や、経済効果を含めた地域振興にも貢献した。

### (1) 全国大会（8,031万円）

#### 1) 笹川良一杯 第25回全国選抜ゲートボール大会（日本財団助成事業）

全国各地からの参加者が開催地に参集することにより、単に勝敗を競い合うだけでなく、親善交流の場として、人と人とのふれあいの中からゲートボール愛好者の和とその楽しさ、ゲートボールの真の姿を社会的にアピールすることを目的とし、年齢・性別により4クラスに分けてチームを編成し本大会を開催した。

期 日 平成22年5月29日（土）・30日（日）

開 催 地 長野県長野市

会 場 南長野運動公園 長野オリンピックスタジアム

主 管 長野県ゲートボール連盟

参加チーム 192チーム

参加人数 1,142名

### 成 績

順位	<シニアクラス>		<シニアレディースクラス>	
	チーム名	加盟団体	チーム名	加盟団体
優勝	佐伯同級生	広島	いろは	新潟
準優勝	小松島	徳島	速見	大分
第3位	市野	静岡岡	芹田レディース	長野
	埼玉シニア男子ファミリー	埼玉	平塚	神奈川

順位	<ミドルクラス>		<ミドルレディースクラス>	
	チーム名	加盟団体	チーム名	加盟団体
優勝	フレンズスポーツA	鹿児島	ピンクレディー新潟	新潟
準優勝	萬燈組	愛知	伊勢崎ジャスパー	群馬
第3位	健祥会	徳島	栃木北レディース	栃木
	都城友の会	宮崎	苫小牧スマイル	北海道

2) 内閣総理大臣杯 第27回全日本世代交流ゲートボール大会（日本財団助成事業）

高齢者の生きがい対策だけでなく、ゲートボールを通じて高齢者・青壮年・子供が共に楽しむ世代間交流を図ることにより、調和のとれた地域コミュニティを創造することを目的とし本大会を開催した。

期 日 平成22年7月31日（土）・8月1日（日）  
 開 催 地 埼玉県熊谷市  
 会 場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム  
 主 管 埼玉県ゲートボール連盟  
 参加チーム 48チーム  
 参加人数 309名

成 績

順位	チーム名	加盟団体
優勝	T K E	新 潟
準優勝	熊 本 ハ ッ ピ ー	熊 本
第3位	日 高 か わ せ み 1 6 会	埼 玉
	下 見 立	福 岡
第4位	ゲ ー ト ス タ ー ズ	栃 木
	小 松 島	徳 島
	小 松 島 B	徳 島
敢闘賞	岩 手 矢 巾	岩 手
	岩 手 矢 巾	岩 手

3) 第15回全国ジュニアゲートボール大会（日本財団助成事業）

全国の各都道府県から選ばれたゲートボールを愛好する児童・生徒を一堂に会し、競技を通じた交流のもとに相互の友好を深めることにより、次代を担う児童・生徒の心身の健全な育成や、日本スポーツのさらなる振興を目的とし本大会を開催した。

期 日 平成22年7月31日（土）・8月1日（日）  
 開 催 地 埼玉県熊谷市  
 会 場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム  
 主 管 埼玉県ゲートボール連盟  
 参加チーム 64チーム  
 参加人数 454名

成 績

<ジュニア男子1部クラス>

順位	チーム名	加盟団体
優勝	大 垣 ジ ュ ニ ア A	岐 阜
準優勝	朝 霞 高 校 A	埼 玉
第3位	富 士 ス ノ ー フ ァ ル コ ン	静 岡
	小 豆 島 ジ ュ ニ ア	香 川

<ジュニア女子1部クラス>

順位	チーム名	加盟団体
優勝	作 新 ク ラ ブ	栃 木

準優勝	ツーカー25A	愛媛
第3位	出雲西高校	島根
	黒田庄ハニーズ	兵庫

<ジュニア2部クラス>

順位	チーム名	加盟団体
優勝	M A N A B U 会 J r	福岡
準優勝	小松島ジュニア	徳島
第3位	ジュニア島根	島根
	黒田庄エンジェルズ	兵庫

4) 第12回全国社会人ゲートボール大会（日本財団助成事業）

各都道府県で一定の職業に従事する社会人の代表チームが一堂に会す機会を提供し、企業スポーツとしてのゲートボールの普及振興に資することにより、社会人の健康の保持増進、職場内の親睦、同業種間・異業種間の交流、勤労意欲の向上を図り、以て活力ある社会づくりに寄与することを目的とし本大会を開催した。

期 日 平成22年9月4日（土）・5日（日）  
 開 催 地 鳥取県鳥取市  
 会 場 コカ・コーラ ウェスト スポーツパーク 陸上競技場  
 主 管 鳥取県ゲートボール協会  
 参加チーム 37チーム  
 参加人数 238名  
 成 績

順位	チーム名	加盟団体
優勝	玉山工業	京都
準優勝	北建ジーンズ	福岡
第3位	健康祥会	徳島
	糸口厚生園	大分

5) 文部科学大臣杯 第26回全日本ゲートボール選手権大会（スポーツ振興基金助成事業）

年齢・性別を問わず全国から集う人格・技量共に最優秀の代表チームが安全・公平にその技量を競い合う環境を提供することにより、わが国の最高位チームを決定し、ゲートボール競技の技能向上やさらなる普及を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とし本大会を開催した。

期 日 平成22年10月30日（土）・31日（日）  
 開 催 地 群馬県太田市  
 会 場 太田市運動公園 陸上競技場 サッカー・ラグビー場  
 主 管 群馬県ゲートボール協会  
 参加チーム 48チーム  
 参加人員 308名



## 成 績

順位	チーム名	加盟団体
優勝	き ら り 三 日 月	兵 庫
準優勝	大 阪 み ど り	大 阪
第3位	フ レ ン ド ス ポ ー ツ	鹿 児 島
	群 馬 G リ ー グ	群 馬

### (2) 地域大会(1,876万円)

それぞれの地域協議会を構成する加盟団体相互の交流と愛好者の技術力向上を目的に、地域選手権大会を全国10地域で開催した。

また、地域のジュニア大会、ミドル大会等が地域協議会主導で開催されたが、これをすべての地域協議会に広げるとともに、地域における若年層の普及促進に努めた。

#### 1) 地域選手権大会

地域	開催地	開催日	参加チーム数	優勝チーム
北海道	北海道	7月10日・11日	30	ナイスウイング
東北	岩手	7月24日・25日	24	平川(無制限)
			24	北上市(65歳以上)
北信越	石川	4月24日・25日	100	武生流星
北関東	埼玉	9月11日・12日	64	安中
南関東	千葉	9月8日	32	新日鐵君津
東海	愛知	10月9日	48	萬燈組
近畿	奈良	9月18日・19日	121	青空
中国	山口	10月2日・3日	40	東広島GBC(一般)
			20	仁保の郷(女子)
四国	徳島	5月9日	48	小松島
九州	熊本	11月6日・7日	64	青友会

#### 2) 地域ジュニア大会

地域	開催地	開催日	参加チーム数	優勝チーム
東北	岩手	7月24日・25日	4	もりおか木曜クラブJM
南関東	東京	7月27日	5	開成学園A(1部)
			6	さがみっ子(2部)
四国	愛媛	8月22日	4	小松島ジュニアA
九州	大分	8月21日・22日	2	MANABU会 Jr

#### 3) 地域ミドル大会

地域	開催地	開催日	参加チーム数	優勝
四国	高知	5月6日	24	徳島県
九州	鹿児島	8月21日・22日	22	MANABU会

## 7. アンチ・ドーピング活動の展開

平成21年度に加盟した財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)の指導のもと、スポーツ競技団体として、スポーツの価値を否定し、フェアプレーの精神に反し、競技者の健康を害する反社会的行為であるドーピングの防止活動をおこなった。

今後も、国民体育大会の公開競技への参加も鑑み、いわゆる「うっかりドーピング」をして

しまうようなことが無いように、啓蒙活動を推進する。

## 8. 各種大会の後援等

中央省庁等が関係する行事に対して、開催地加盟団体の協力のもと主催または後援し、ゲートボールの普及発展および参加者相互の交流に寄与した。

### (1) 第23回全国スポーツ・レクリエーション祭（ゲートボール競技）

期 日	平成22年10月17日（日）・18日（月）
開 催 地	富山県富山市
会 場	富山県五福公園陸上競技場
主 催	文部科学省、(財)日本ゲートボール連合、(財)日本体育協会、(財)日本レクリエーション協会、(社)全国体育指導委員連合、富山県、富山市
主 管	富山県実行委員会、(特)富山県ゲートボール協会、富山市実行委員会
参加チーム	79チーム（韓国2チーム含む）
参加人数	489名

### (2) 第23回全国健康福祉祭いしかわ大会（ゲートボール交流大会）

期 日	平成22年10月9日（土）～ 11日（月）
開 催 地	石川県小松市
会 場	こまつドーム
主 催	厚生労働省、石川県、小松市、(財)長寿社会開発センター、第23回全国健康福祉祭いしかわ大会実行委員会、第23回全国健康福祉祭いしかわ大会小松市実行委員会
主 管	石川県ゲートボール協会
後 援	(財)日本ゲートボール連合
参加チーム	164チーム
参加人数	966名

## 9. ゲートボール用具の認定（41万円）

ゲートボール用具認定規程や同実施要領に準拠し、競技を公正・安全に行えることを目的とした用具の認定基準に則り、第三者機関の検査に合格したゲートボール用具を認定する契約を15社と締結し、認定スティックへの認定証紙（シール）の貼付、認定ボールへの刻印を認めた。

また、ゲートボール用具について本連合と認定契約を締結している業者同士が組織する日本ゲートボール認定用品工業会と、組織の確立や将来に向けた話し合いの場を設け、同会の今後の指針に関する意見交換を行った。

## 10. 国民体育大会の正式競技種目採択への活動

現在、ゲートボールはデモンストレーション競技として国体に参加しているが、国体改革による競技種目の見直しの中で、平成27年の和歌山国体より、公開競技として参加できるようになっている。

しかし、公開競技は天皇杯・皇后杯の総合成績の対象外であり、総合開会式への出席もできず、さらに、統一ユニフォームや大会運営費等も自己負担であり、経費負担等で正式競技種目との扱いに大きな差があり、ゲートボールの普及について支障が大きい。

本連合では、正式競技種目採択の署名運動の結果も踏まえ、次回の見直しに向けて、ゲートボール振興議員連盟の協力を得て、引き続き文部科学省および(財)日本体育協会に働きかけを行った。

#### 1 1. 大会協賛企業ならびに賛助会員の募集

本連合の円滑な事業運営を図るため、全国大会への協賛ならびに賛助会員の募集活動を積極的に行った。

##### (1) 大会協賛企業

本連合主催の全国大会にご協賛いただいた企業等は次のとおり(順不同)。

山崎製パン株式会社	東日観光株式会社
財団法人競艇振興センター (通称：BOAT RACE振興会)	株式会社シャトル
	株式会社ティエヌケイ
独立行政法人日本スポーツ振興センター	株式会社サンシャインスポーツ
株式会社日本レジャーチャンネル	有限会社やるき産業
株式会社日本旅行	株式会社ニチヨー
トップツアー株式会社	株式会社本郷
近畿日本ツーリスト株式会社	

(2) 賛助会員

平成 22 年度においては、入会および脱会はなかった。

平成 23 年 3 月 31 日現在の賛助会員 33 社は次のとおり。(順不同)

会社名	所在地
(株)ニチヨー	栃木県足利市堀込町 2541
(株)サンシャインスポーツ	長野県松本市島内 5330
村上木工挽物(有)	埼玉県和光市白子 3-36-40
(株)サン	新潟県三条市下須頃 5-1
(株)ワールドダイヤモンド	東京都世田谷区成城 5-9-14
(株)シャトル	福井県越前市家久町 87-21-1
(株)ロンウッド	富山県南砺市法林寺 518
(株)本郷	広島県廿日市市木材港北 1-4
(株)サンラッキー	大阪府大阪市東成区大今里 3-12-23
(株)ティエヌケイ	埼玉県川越市松江町 1-12-8
(有)福島木工所	熊本県熊本市世安町 36
(有)やるき産業	熊本県熊本市西原 2-11-49
羽立工業(株)	静岡県湖西市新所 3
(株)ウシクボ	東京都墨田区東向島 6-15-7
井上工業(株)	兵庫県加東市上滝野 1613
トップツアー(株)	東京都新宿区西新宿 7-5-25
日本通運(株)首都圏旅行支店	東京都港区東新橋 1-9-3
大日本トラベル(株)	東京都港区新橋 4-6-6
東日観光(株)	東京都中央区築地 4-7-5
近畿日本ツーリスト(株)	東京都千代田区神田松永町 19-2
名鉄観光サービス(株)	東京都品川区西五反田 2-12-3
(株)日本旅行	東京都新宿区左門町 16-1
(株)大真	東京都千代田区岩本町 3-4-5
(株)天賞堂	東京都中央区銀座 4-3-9
(株)かいせい	東京都港区西新橋 2-15-3
(株)恒亜印刷	東京都文京区千石 2-4-5
エーアンドエー(株)	東京都千代田区西神田 3-3-5
(株)アオイスports企画	東京都稲城市矢野口 3266-1
(株)サンワ	埼玉県戸田市新曽 2002
(株)東京ビー・エム・シー	東京都港区西新橋 2-2-4
(株)セディナ	東京都新宿区西新宿 3-6-11
ブロードマインド(株)	東京都渋谷区恵比寿南 1-5-5
(株)エヌ・エル・エー	福岡県福岡市博多区店屋町 3-20

## 12. 共済見舞金事業(3,819万円)

本制度はゲートボール会員の相互扶助の精神に基づき、愛好者が安心してプレーを楽しめる環境を提供し、給付対象事故に所定の見舞金を給付した。平成22年度の加入者数は、145,138名となり、前年度と比較して14,484名減少し、給付件数も52件の減少となった。

なお、保険業法の改正に対応し、本制度を維持継続させるため、金融庁と協議した結果、平成22年度に規程の一部を改正し、給付額を改定することとなった。

年度別共済見舞金制度運営実績一覧4

	加入者数	給付件数	死亡	入院	通院	見舞金給付額(円)
昭和62年度	249,314	411	26	119	266	34,100,000
昭和63年度	271,371	504	32	178	294	43,895,000
平成1年度	298,674	414	37	138	239	40,545,000
平成2年度	301,400	474	28	189	257	38,600,000
平成3年度	313,280	507	43	173	291	49,655,000
平成4年度	302,957	480	46	192	242	49,775,000
平成5年度	299,854	412	23	155	234	32,580,000
平成6年度	292,867	398	25	148	225	34,260,000
平成7年度	289,263	364	24	153	187	33,040,000
平成8年度	286,614	395	40	160	195	44,750,000
平成9年度	285,943	378	21	167	190	30,940,000
平成10年度	284,074	386	37	172	177	41,120,000
平成11年度	281,196	316	24	128	164	29,355,000
平成12年度	282,074	385	27	158	200	33,990,000
平成13年度	269,960	351	33	150	168	39,195,000
平成14年度	262,324	304	30	131	143	33,100,000
平成15年度	252,923	311	21	154	136	29,280,000
平成16年度	237,006	278	23	124	131	26,130,000
平成17年度	222,926	257	19	111	127	23,655,000
平成18年度	207,053	219	14	107	98	19,145,000
平成19年度	188,361	195	12	90	93	16,845,000
平成20年度	174,202	157	9	88	60	14,845,000
平成21年度	159,622	193	20	84	89	23,075,000
平成22年度	145,138	141	13	70	58	16,160,000
平均	256,600	343	26	139	178	32,418,125

平成22年度ランク別傷病件数

	Aランク			Bランク			Cランク			合計			
	死亡	入院	通院	死亡	入院	通院	死亡	入院	通院	死亡	入院	通院	計
骨折	0	25	21	0	0	0	0	8	4	0	33	25	58
打撲	0	0	7	0	0	0	0	2	5	0	2	12	14
挫傷	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3	3
捻挫	0	0	3	0	0	0	0	0	6	0	0	9	9
心臓器障害	0	1	0	9	4	0	0	0	0	9	5	0	14
脳疾患	0	2	0	1	8	0	1	2	0	2	12	0	14
その他	0	2	6	1	14	0	1	2	3	2	18	9	29
合計	0	30	38	11	26	0	2	14	20	13	70	58	141

### 1 3. 功労者等の表彰(319 万円)

永年にわたりゲートボールの普及に功績のあった個人ならびに本連合の諸事業に顕著な功績のあった加盟団体を表彰した。

#### 1) ゲートボール功労者表彰

ゲートボールの普及活動や組織運営に顕著な功労のあった方を、加盟団体からの推薦により、46 名を表彰した。

#### 2) 健康功労者表彰

加盟団体からの推薦により、ゲートボールを通じ永年健康を維持し医療費の軽減に努め、他の模範となった 70 歳以上、302 名を表彰した。

#### 3) 審判員功労者表彰

審判員功労者表彰規程に基づき、本年度から 1 級審判員の資格を取得し永年にわたり審判員として大会運営等に積極的に参加し、顕著な功績のあった 237 名を表彰した。

#### 4) 加盟団体表彰

平成 23 年 3 月 31 日現在の会員数・審判員数・共済見舞金制度加入者数等に基づき、日本連合の諸事業に貢献した加盟団体のうち、下記の上位 3 団体と部門 1 位団体を表彰した。

なお、今回から、算定基準の部門の見直しと部門賞の表彰団体数削減を行った。

総 合	1 位	埼玉県ゲートボール連盟
	2 位	新潟県ゲートボール連盟
	3 位	兵庫県ゲートボール連合
登録審判員の部 (対前年比会員比審判員登録率)		兵庫県ゲートボール連合
全国大会参加率・主管点の部		埼玉県ゲートボール連盟

### 1 4. 会員登録システムの構築準備

加盟団体会員の現状について、文部科学省からの指導もあり、日本連合でデータを一元的に整理できるシステムを構築するための準備作業を進め、総務財政委員会の意見も参考に、業者の選定基準、登録項目等を検討した。

### 1 5. 広報活動および啓蒙活動

機関誌の発行、ホームページの更新、参考図書出版、テレビ放映を中心とした広報活動を展開し、愛好者はもちろん、広く一般に情報を提供した。

#### (1) 機関誌発行业 (3, 788 万円)

ゲートボール界唯一の情報誌として機関誌「ナイスパル」を年 12 回 (毎月 10 日) 発行した。掲載内容はゲートボール界全般にわたり、各地域からの情報をもとに、本連合主催の全国大会の案内・成績の公表、加盟団体連繫プログラム等国内外での各種普及事業の実施状況、各地域における大会等の紹介、さらに、ルールや作戦の解説、購読者からのお便り紹介等購読者のニーズを探りながら誌面づくりをした。

なお、機関誌「ナイスパル」は、平 24 年 3 月号を持って一旦休刊とし、その後の新しい情報伝達手段を検討する。

## (2) ホームページによる広報

機関誌「ナイスパル」と連動した各種ニュースのほか、全国大会の結果、公益法人として必要な情報公開等についてホームページを更新することにより、ブログ「週刊ゲートボール」と連携し、できるだけタイムリーに情報を伝達した。

また、加盟団体の情報をより多くの人たちに周知するため、加盟団体の担当者が気軽に利用できる情報発信の場を設けるよう検討した。

さらに、文部科学省、(財)日本体育協会、(財)日本レクリエーション協会、(財)日本アンチ・ドーピング機構等関係諸機関のウェブサイトとの相互リンクを拡充し、利用者の利便性の向上とゲートボールのイメージアップを図った。

## (3) 刊行物・入門ツールの充実 (839万円)

公式競技規則および審判実施要領の理解促進や、ゲートボールの上達方法・作戦についての出版刊行物を発行した。

これらについては、公式競技規則が平成23年4月1日に一部改正して施行することに伴い、公式競技規則および審判実施要領を刷新して合本した2011年版の冊子を発行したほか、作戦面の大幅な変更から、上達ハンドブックシリーズおよび理想の一手の販売を平成23年3月31日で終了した。

なお、ルールの解説『Q&A』2011、審判員資格試験想定問題集2011については、平成23年度に改訂して発行予定である。

また、頭脳スポーツ、コミュニケーション・スポーツとしてのゲートボールの新たな可能性を引き出す「リレーションー2&3」等のパンフレットについても引き続き配布した。

さらに平成22年度は、totoスポーツ振興くじ助成事業としてゲートボールの魅力や効果をアピールするためのパンフレットを新たに作成し配布した。

主な出版刊行物	・公式ゲートボール競技規則・審判実施要領2011
	・公式ゲートボール競技規則2007 平成23年1月31日販売終了
	・審判実施要領2007 平成23年1月31日販売終了
	・ルールの解説『Q&A』2007 平成23年度改訂予定
	・1・2級審判員資格試験想定問題集2007 平成23年度改訂予定
	・3級審判員資格試験想定問題集2007 平成23年度改訂予定
	・ゲートボール上達ハンドブック 平成23年3月31日販売終了
	・ゲートボール上達ハンドブック2 平成23年3月31日販売終了
	・ゲートボール上達ハンドブック3 平成23年3月31日販売終了
	・ゲートボール上達ハンドブック4 平成23年3月31日販売終了
	・ゲートボール上達ハンドブック5 平成23年3月31日販売終了
	・理想の一手 平成23年3月31日販売終了
パンフレット等	・レッツトライ！ ゲートボール
	・レッツトライ！ リレーションー2&3
	・販売物品パンフレット

- ・全世代型ゲートボールクラブの育成
- ・ゲートボール普及活動促進BOOK
- ・魅力発見！ゲートボール（DVD・VHS）
- ・ようこそゲートボールへ

(4) 通信衛星放送による普及啓蒙番組「スーパーゲートボール」の製作と放映(300万円)  
 全国大会を中心に、テーマ設定したコーナーを織り込みながら、年間27番組を新規制作し、再放送分を加えて毎日放映した。

期 間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
制作・配信	株式会社日本レジャーチャンネル
配信方法	①スカイパーフェクTV!380ch ②ケーブルテレビ171局（平成23年3月31日現在）
放送回数	365回（毎日6:00～7:00）

## 16. 国際交流活動事業

世界ゲートボール連合やアジアゲートボール連合の加盟団体および普及国・地域における国際親善大会の開催に伴い、現地に国際審判員や選手を派遣するとともに、指導員を積極的に派遣して技術力向上に努めたほか、愛好者より寄贈された中古用具等を普及の兆しのある国や地域に配布し、ゲートボールを通じた国際親善交流の促進を図った。

### (1) 海外への派遣（日本財団助成事業）（894万円）

以下のとおり役員、職員等を派遣した。

ロシア(アストラハン)	4月22日～29日	普及活動	1名派遣
モンゴル(ウランバートル)	4月26日～5月1日	普及活動	2名派遣
韓国(濟州島)	6月17日～19日	大会打ち合わせ	1名派遣
フィリピン(マニラ)	6月19日～24日	大会出席	1名派遣
中国(重慶・上海)	7月20日～26日	大会出席ほか	1名派遣
モンゴル(ウランバートル)	8月25日～30日	普及活動	1名派遣
中国(上海)	8月25日～29日	世界選手権大会打合せ他	2名派遣
中国(上海)	9月15日～22日	世界選手権大会	8名派遣
中国(上海)	9月16日～20日	ゲートボールサミット2010出席	2名派遣
インドネシア(バリ島)	10月15日～20日	大会出席	1名派遣
韓国(濟州島)	11月2日～4日	大会出席	2名派遣
中国(昆山)	11月26日～28日	大会出席	1名派遣

※香港で開催予定であった「元朗体育節大会」は、大型台風の接近により中止となった。

### (2) 世界ゲートボール連合への協力（日本財団助成事業）（1,773万円）

#### 1) 第10回世界ゲートボール選手権大会

2010年9月17日～19日の3日間に亘って、世界ゲートボール連合主催による第10回世界ゲートボール選手権大会が中国上海市で開催され、本連合も世界ゲートボ



ール組織の支援・充実事業として本大会への運営協力を行った。過去最高となる13の国と地域から92チーム・688名の監督・選手が参加し、日本からも全日本選手権大会の優勝チームなど15チーム・98名を派遣したが、日本のすべてのチームは準々決勝で敗退した。優勝は中国の福建省チームで、中国チームの優勝は史上初。準々決勝に進出した8チームのうち、7チームを中国勢が占める結果となり、中国の技術レベルの高さが改めて証明された。その要因は、「精度の高いタッチ・スパーク打撃」「戦術において、状況に応じて適応できる柔軟な対応力」「素晴らしいチームスピリット」などが挙げられる。

また、今大会の審判員は、6つの国と地域から108名の国際審判員が担当し、日本からも5府県加盟団体からの協力で15名の国際審判員を派遣した。

主 催	世界ゲートボール連合
期 日	2010年9月17日（金）～19日（日）
開 催 地	中華人民共和国上海市浦東新区高東鎮
会 場	高東鎮門球テーマパーク
参加チーム	92チーム
参 加 国 (地 域)	オーストラリア、ブラジル、中国、ホンコン・チャイナ、日本、 韓国、マカオ・チャイナ、パラグアイ、チャイニーズ・タイペイ、 アメリカ、インドネシア、フィリピン、ロシア

#### 成 績

順位	チ ャ ーム名	国名
優 勝	福 建 省 隊	中 国
準優勝	雲 南 黎 明 隊	中 国
第3位	張 溪 鄭 二 小 学	中 国
	鄭 州 永 通 特 鋼 隊	中 国

#### 日本から参加したチームの成績

チーム名	加盟団体	リーグ戦成績		トーナメント戦成績
ザ ・ 岩 手	岩 手	2勝1敗	リーグ戦敗退	
岩 手 久 慈		1勝2敗	リーグ戦敗退	
栃 木 鹿 沼	栃 木	1勝2敗	リーグ戦敗退	
朝 霞 ク ラ ブ	埼 玉	2勝1敗	リーグ戦敗退	
T K E	新 潟	3勝0敗	トーナメント戦進出	3回戦敗退
N I I G A T A		0勝3敗	リーグ戦敗退	
能 美 シ テ ィ	石 川	2勝1敗	リーグ戦敗退	
福 井 は る え	福 井	2勝1敗	リーグ戦敗退	
岐 阜 西 濃	岐 阜	2勝1敗	リーグ戦敗退	
静 岡	静 岡	3勝0敗	トーナメント戦進出	1回戦敗退
京都亀々倶楽部	京 都	2勝1敗	リーグ戦敗退	
大阪みどり	大 阪	3勝0敗	トーナメント戦進出	1回戦敗退
健 祥 会	徳 島	2勝1敗	リーグ戦敗退	
小 松 島		3勝0敗	トーナメント戦進出	1回戦敗退
フレンズスポーツ	鹿 児 島	3勝0敗	トーナメント戦進出	1回戦敗退

日本から派遣した国際審判員

加盟団体		派遣人数	加盟団体		派遣人数
新	潟	9名	大	阪	1名
福	井	3名	兵	庫	1名
和	歌 山	1名			

2) ゲートボール・サミット 2010

各国・地域の普及の現状を把握し情報を共有することにより、今後のゲートボール普及に対する施策を模索するため、初の試みとしてゲートボール・サミットを開催した。

期 日 2010年9月17日(金)

主 催 (財)日本ゲートボール連合

世界ゲートボール連合

会 場 クラウンプラザホテル上海浦東(中国上海市)

参加国・地域 オーストラリア、ブラジル、中国、ホンコン・チャイナ、日本、韓国、マカオ・チャイナ、パラグアイ、チャイニーズ・タイペイ、アメリカ、インドネシア、フィリピン、ロシア、スイス

(3) アジアゲートボール連合への協力

2012年度の第6回アジアゲートボール選手権大会の開催にむけ、マカオ・チャイナに職員を派遣し、打ち合わせを行った。

11月15日～18日 1名派遣

(4) 第4回ジュニア国際交流ゲートボールオープン大会(60万円)

国際的に広がりを見せているゲートボールは年齢を問わず、ジュニア層にも着実に普及されており、拡充してきた国や地域では海外との交流の要望も出ている。

日本国内も同様にゲートボールを通じた国際感覚を身に付けたジュニアの愛好者を育成すべく、本大会を開催した。

期 日 平成22年8月2日(月)

開 催 地 埼玉県熊谷市

会 場 熊谷スポーツ文化公園 彩の国くまがやドーム

主 管 埼玉県ゲートボール連盟

参加国・地域 中国、チャイニーズ・タイペイ、日本

参加チーム 18チーム(中国2、チャイニーズ・タイペイ5、日本11)

参加人数 117名

優 勝	朝霞高校 A (埼玉県)
-----	--------------

## 別表1

### 役員名簿

平成23年3月31日現在

会長	小野清子	独立行政法人日本スポーツ振興センター	理事長
副会長		空席	
専務理事	遠藤容弘	財団法人日本ゲートボール連合	
常務理事		空席	
理事	玉利 斉	財団法人日本健康スポーツ連盟	理事長
理事	小高幹雄	BOAT RACE振興会	会長
理事	石川牧子	株式会社日本テレビエンツ	常務取締役
理事	梅村和伸	財団法人全国高等学校体育連盟	専務理事
理事	戸部英一	北海道ゲートボール連合	会長
理事	佐藤和夫	宮城県ゲートボール連盟	会長
理事	長島忠美	新潟県ゲートボール連盟	会長
理事	松本竹次	埼玉県ゲートボール連盟	会長
理事	中川雅治	(特)東京ゲートボール連合	会長
理事	土居征夫	静岡県ゲートボール協会	副会長
理事	上西綱雄	奈良県ゲートボール協会	会長
理事	梶田郁宗	島根県ゲートボール協会	会長
理事	中村博彦	徳島県ゲートボール協会	会長
理事	田中忠孝	福岡県ゲートボール連合	会長
監事	西本克己	株式会社東京ビー・エム・シー	代表取締役社長
監事	船越 眞	BOAT RACE振興会	常務理事

## 別表2

## 評議員名簿

学識経験者

平成23年3月31日現在

氏名	所	属
河原塚達樹	(財)日本レクリエーション協会	生涯スポーツ推進部長
増田和茂	(財)健康・体力づくり事業財団	理事
大島渉	全国競艇施設所有者協議会	専務理事
藤川務	(株)日本レジャーチャンネル	代表取締役社長
今義男	海洋政策研究財団	理事長
広渡英治	(財)ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	専務理事
渡邊一利	(財)笹川スポーツ財団	常務理事
森田文憲	(財)日本海事科学振興財団	理事長
天城一	(公財)社会貢献支援財団	専務理事
三ツ谷洋子	(株)スポーツ21エンタープライズ	代表取締役社長
荒木田裕子	(財)日本バレーボール協会	国際事業本部副本部長

加盟団体代表

氏名	加盟団体	氏名	加盟団体
山田英雄	北海道GB連合	辻野治	滋賀県GB連盟
木村定光	青森県GB協会	吉田清治	京都府GB連合
長沼正知	岩手県GB協会	奥間邑善	大阪GB連盟
高橋勇喜	宮城県GB連盟	田桑稔	兵庫県GB連合
鈴木一男	秋田県GB協会	辻本隼夫	奈良県GB協会
栴田敏行	山形県GB協会	小田實	和歌山県GB協会
石井賢明	福島県GB協会	中村孝太郎	鳥取県GB協会
石野雅昭	茨城県GB連合会	佐々木宗吾	島根県GB協会
船田元	栃木県GB協会	瀧口壽美男	岡山県GB協会
稲垣稔	群馬県GB協会	栗栖定	広島県GB連合
新井治男	埼玉県GB連盟	中田憲明	山口県GB協会
新見義和	千葉県GB連盟	敷田昭明	徳島県GB協会
小林茂量	(特)東京GB連合	川畑省三	香川県GB連盟
岡田喜久雄	神奈川県GB連合	石川忠	愛媛県GB連合
山岡重雄	新潟県GB連盟	山内高	高知県GB協会
南民生	(特)富山県GB協会	月岡美次郎	福岡県GB連合
村井恒夫	石川県GB協会	吉富進	佐賀県GB協会
吉川豊	福井県GB協会	馬場喜代治	長崎県GB協会
田辺美一	山梨県GB協会	中嶋利秋	熊本県GB連合
三ツ井盈	長野県GB連盟	羽田野尚	大分県GB協会
黒田雅雄	岐阜県GB連盟	長田利光	宮崎県GB協会
中山繁男	静岡県GB協会	児玉義人	鹿児島県GB協会
山崎葉璽	愛知県GB連盟	大城哲夫	沖縄県GB連合
渋谷節男	三重県GB連合会		

## 別表3

## 専門委員会委員名簿

平成23年3月31日現在

## 総務財政委員会

氏名	所 属
委員長 内 間 由 男	北海道ゲートボール連合理事長
副委員長 中 嶋 利 秋	熊本県ゲートボール連合理事長
委 員 佐々木 兼 光	秋田県ゲートボール協会副会長
〃 野 本 美 穂	長野県ゲートボール連盟事務局長
〃 稲 垣 稔 稔	群馬県ゲートボール協会前会長
〃 古 屋 文 治	山梨県ゲートボール協会前事務局長
〃 山 崎 葉 璽	愛知県ゲートボール連盟事務局長
〃 辻 本 隼 夫	和歌山県ゲートボール協会副会長
〃 吉 鶴 禎 昭	鳥取県ゲートボール協会事務局長
〃 川 畑 省 三	香川県ゲートボール連盟会長
〃 岡 嵩 修 平	海洋政策研究財団常務理事

## 競技・審判委員会

氏名	所 属
委員長 五十嵐 隆 男	北海道ゲートボール連合常任理事
副委員長 長 沼 正 知	岩手県ゲートボール協会副理事長
〃 大 城 哲 夫	沖縄県ゲートボール連合理事長
委 員 古 崎 邦 夫	福井県ゲートボール協会理事長
〃 石 野 雅 昭	茨城県ゲートボール連合理事長
〃 上 原 清 孝	神奈川県ゲートボール連合理事長
〃 黒 田 雅 雄	岐阜県ゲートボール連盟理事長
〃 鈴 木 信 久	京都府ゲートボール連合会長
〃 中 田 憲 明	山口県ゲートボール協会理事長
〃 宮 本 實 實	徳島県ゲートボール協会事務局長
〃 松 尾 哲 矢	立 教 大 学 教 授
〃 植 田 昌 利	(財)日本サッカー協会常務理事

## ドーピング防止委員会

氏名	所 属
委員長 五十嵐 隆 男	北海道ゲートボール連合常任理事
委 員 松 尾 哲 矢	立 教 大 学 教 授
〃 加 藤 晴 康	立 教 大 学 准 教 授

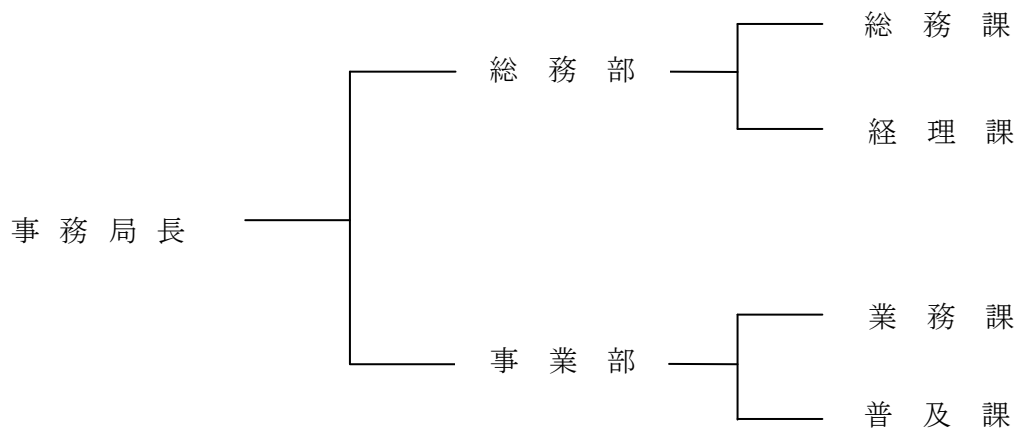
## 普及指導委員会

氏名	所 属
委員長 若 林 静 子	新潟県ゲートボール連盟常務理事
副委員長 児 玉 義 人	鹿児島県ゲートボール協会会長
委 員 五十嵐 太 司 郎	北海道ゲートボール連合常任理事
〃 佐 藤 黎 子	宮城県ゲートボール連盟理事
〃 小 口 孝 夫	栃木県ゲートボール協会理事長
〃 小 林 茂 量	(特)東京ゲートボール連合理事長
〃 土 居 征 夫	静岡県ゲートボール協会副会長
〃 田 桑 稔 義	兵庫県ゲートボール連合理事長
〃 本 郷 明 義	広島県ゲートボール連合理事
〃 中 村 太 一	徳島県ゲートボール協会副会長
〃 今 井 茂 満	(財)日本バドミントン協会理事・事務局長

別表4

事務局組織図

平成23年3月31日現在



前記のとおり相違ありません。

平成 23 年 5 月 10 日

財団法人日本ゲートボール連合  
会 長 小 野 清 子

平成 22 年度の事業報告書を監査したところ、適正かつ正確であることを  
認めます。

平成 23 年 5 月 16 日

監 事 西 本 克 己

監 事 船 越 眞